

### 第三者評価結果

事業所名：グローバルキッズ戸塚第二保育園

#### A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-① 【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt; 全体的な計画は、保育所の理念・方針・目標に基づき、全職員で話し合い作成しています。年度末には、今年度の全体的な計画の評価を行っています。保育における課題を明らかにしたうえで、次年度の全体的な計画の作成を行っています。現在の子どもの姿を改めて捉え直し、子どもの育ちや発達を意識した明確な計画となるように改善を重ねています。今年度は特に「養護」と「人権」を軸として、一人ひとりがのびやかに成長できる環境を整えることを大切にしています。児童憲章・児童の権利に関する条約・児童福祉法などに関しては、全職員が更に理解を深める必要があると考え、勉強会の開催を検討しています。また、保育所保育指針の読み合わせを行いながら、子どもとの関わりを再認識できる時間も持ちたいと考えています。今後の更なる保育の質の向上が期待されます。</p>	
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-① 【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 子どもが心地よく過ごせる環境として、常に保育に適切な状態を保持しています。職員が保育室の清掃を丁寧に行い、クラスクリーンチェック表をファイル管理しています。室内は、大きな窓から射し込む自然光に満たされています。色とりどりの子どもの作品や壁面装飾が飾られ、優しく親しみのある空間を創り出しています。各クラスは仕切りのない一体的な空間で、全職員が全体を見渡しながらかんたんと安全を充実させた保育を行っています。栄養士も調理室からクラスの様子を見ることが出来ます。子どもの様子や設定したい環境に応じて、職員が作成した段ボールの仕切りを移動させて、空間作りを行っています。手洗い場やトイレは、年齢に応じた高さや大きさの設備が整えられています。幼児のトイレには扉があり、プライバシーの配慮もされています。</p>	
<p>A-1-(2)-② 【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 全体的な計画には、保育園の社会的責任として、「子どもの人権に十分配慮しその人格を尊重し保育を行う。」ことを明記しています。入園前面談・児童票・個人面談などから、子どもの発育状況と発達過程、家庭環境などの把握に努めています。職員は、日々子どもに関りながら子どもの甘えたい気持ちや言葉にならない思いをしっかりと受け止め、子どもの状態に応じた適切な援助や環境構成ができるように配慮しています。園長は、職員の心が囚われて、落ち着くことのできない状態にあると、せかず言葉や制止させる言葉を使ってしまうと考えています。1日に3度は各クラスをまわりながら子どもだけでなく職員の様子も気かけながら、必要に応じてアドバイスをしています。</p>	
<p>A-1-(2)-③ 【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 基本的な生活習慣が身につくように、発達や年齢に応じた援助をしています。自分でやりたいと思う気持ちの芽生えを大切に、時間と場所を十分に準備して自分でできたという達成感が得られるように見守っています。活動と休息のバランスを保つよう日々の保育を工夫しています。連絡ノートや受け入れ時の保護者との会話から、子どもの家庭での姿を捉え、必要に応じて午前睡を行うなど活動内容を柔軟に変更する体制を整えています。体調面だけでなく、子どもの精神面にも着目しています。子どもが、散歩に行きたくない気分の時も無理に連れ出さず、子どもの気持ちを受容するように努め、散歩の間は事務室で落ち着いて過ごせるようにするなど配慮しています。</p>	

<p>【A5】 A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 保育室には、玩具や絵本が十分に用意され、自由に手に取れるように配置されています。戸外遊びでは、毎日近隣の公園に行き体を伸び伸ばしと動かし、自然に触れて季節が感じられるようにしています。勤労感謝の日には、消防署に行き、感謝のお手紙を手渡しました。地域の資源を保育に活用するだけでなく、感謝の気持ちを伝えることの大切さを実感する体験となっています。子どもを動かすのではなく、動く環境を設定するのが職員の役割と考えています。「やりたい」子どもの第一声が保育の始まりであり、ここから目標に向かって子どもたちが力を合わせて自分から行動していくように配慮しています。クリスマス発表会では、題材選びから役決めまで子どもの考えで進めています。職員は、常に子どもの思いに寄り添い、実現するようにアイデアを出し合いながら進めています。</p>	
<p>【A6】 A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 0歳児保育では、養護に重点を置き、保育者との心地よいスキンシップによって子どもとの信頼関係や愛着関係が築けるように心がけています。入園時に撮影した家族写真を室内に飾り、明るくて温かな環境作りを行っています。個々の生活リズムを大切にしながら生理的欲求を丁寧に受け止めています。0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係が持てるように、優しい笑顔で子どもの活動を見守り、心の安定が得られるように配慮しています。家庭との連携については、送迎時、顔をあわせて話をする時間を大切にすのほか、連絡用アプリケーションにも丁寧に記述して日頃の様子を伝えられるように努めています。書き込みの少ない保護者に対しては、なるべく書き込みをお願いし、家庭と園生活の様子をお互いに共有しあえるようにしています。</p>	
<p>【A7】 A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt; 児童票や面談で、一人ひとりの子どもの成長段階や家庭状況を把握するだけでなく、送迎時間の会話や連絡用アプリケーションを通して、日々の子どもの様子について家庭との情報共有を行っています。1歳児クラスは、2クラスに分け、職員の目が細やかに届くように配慮しています。更に探索活動が行える環境を作りたいと改善を重ねています。トイレトレーニングは、子どもの発達状況と、保護者の意向も汲み取りながら連携して進めています。イヤイヤ期の子どもに関しては、子どもの言いなりになるのではなく、職員が連携して子どもの様子を見守り、子どもが伝えようとしている思いの根源が何であるのかを職員が気づき、理解できるように努力しています。常に子どもの気持ちに寄り添い、情緒の安定が図れるように努めています。</p>	
<p>【A8】 A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 各クラスに適切な環境が整備されるように、全体的な計画・年間計画・月間保育指導計画に、保育目標やねらいが明記されています。3・4歳児クラスは明るく開放的な空間で、クラス同士の繋がりを大切にしながらも年齢に合わせた活動も充実させています。3歳児クラスは、ルール遊びを少しずつ取り入れて集団遊びの楽しさが味わえるように促しています。4歳児クラスでは、伸び伸びと感じたことや考えたことを表現し、自分の可能性を自分なりの方法で発揮できるように援助しています。5歳児クラスは、小学校生活を見据えてクラスを扉で隔て、落ち着いた空間を作り出しています。子ども主体で遊びや行事を行い、職員は子ども同士の話し合いを見守っています。子どもたちが、物事を最初から立ち上げて成功するという達成感を感じ、自分たちの力に自信を持ち、「今度は何をしようか」と次への意欲を掻き立てる精神的な成長を大切にしています。</p>	
<p>【A9】 A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 2022年度事業報告では、「発達に課題のある子どもへの支援の強化」に取り組み、現状と課題・取組方針・実行計画について明記しています。また、支援児個別日誌・発達相談報告書・障害児保育教育対象児童等加配区分認定表において、個別指導計画や巡回訪問、療育支援センターとの連携を記録しています。障害の状況や特性を考慮した個別の指導計画は、クラスの指導計画と関連付けて、同様の活動を楽しめるように配慮しています。職員は、キャリアアップ研修の障害児保育を受講し、研修報告書を全職員で共有し、必要な知識や情報を得ています。保護者とは、連絡ノートで日々の様子を伝え合うほか、送迎時には小さなことでも伝え合い、信頼関係を築いています。</p>	

<p>【A10】 A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 全体的な計画には、長時間にわたる保育について、落ち着いた環境作りをすることを明文化しています。朝と夕方は合同保育を行っています。合同保育の時間は、幼児と乳児に分かれ、更に0歳児は空間を仕切って活動しています。子どもの発達段階に合わせた遊びを提供し、けがの防止にも配慮したゆったりとした環境を作っています。保育時間の長い子どもの食事は、補食と夕食の提供を行い、補食については、当日でも申し込むことができるため、保護者の仕事上の急な予定変更にも柔軟に対応しています。職員間の引き継ぎ連絡は、伝達ノートとボードへの記入に加えて、口頭でも行い、連絡漏れのないよう努めています。</p>	
<p>【A11】 A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt; 全体的な計画や、年間保育指導計画・月間保育指導計画に小学校を見据えた活動について明記しています。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をもとに、日々の子どもの様子や出来事などを記録し振り返りを行っています。自分の身の回りを整理整頓し、人の話を落ち着いて聞ける姿勢を持てるように指導しています。近隣の小学校では、5歳児を対象に就学に向けた小学校体験会が開催されています。小学校では、小学1年生が、折り紙を教えたり、作文を通して、「楽しみに待ってるよ」など直接伝えてくれることで、就学への喜びや期待をより実感することができます。毎日の保育活動においても、時計に分のシールを貼り、時間への意識が持てるようにしたり、平仮名・片仮名・アルファベット表・地図の掲示、信号ゲームの実施など、楽しみながら学べる工夫をしています。</p>	
<p>A-1-(3) 健康管理</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 保健業務保健衛生マニュアル・SIDSマニュアルなどのマニュアルを整備し、全園児健康診断結果・保健日誌全クラス日誌・保健年間計画を計画・記録し、全職員が確認することができます。入園時には、乳幼児突然死症候群についての説明を行い、情報提供したり、園での取組について説明をしています。登園時には健康観察を行い、保護者と共に子どもの状態を確認します。連絡事項がある場合は、職員間で情報の伝達を行います。降園時には、出来事の他にも午睡状態、機嫌などの細かな情報も保護者に伝えています。毎月ほけんだよりを発行し、流行している病気や健康に関するトラブルの対処法を伝えています。玄関には、現在園内で発生している感染症などの情報を掲示し、保護者の注意を促しています。</p>	
<p>【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 健康診断等については保護者に伝えています。毎月の身体測定、嘱託医による健康診断を年2回以上、歯科健診を年2回実施しています。結果は連絡用アプリケーションや用紙だけでなく、口頭でも伝えています。ほけんだよりでは、3歳児健診の受診を促す呼びかけを行っています。嘱託医から、横浜市で流行している感染症についての情報を入手し、園内での流行を防ぐために早めの対策を立てています。健診を保育計画に生かしていく活動としては、パペットを使用しての歯磨き指導などを行っています。手洗い場には、うがいの仕方・手の洗い方などが、絵入りで掲示されており、絵を見ながら楽しく衛生に気を付けることができるよう工夫されています。</p>	
<p>【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 重要事項説明書に、食物アレルギーで食べられないものがある場合は、除去食の対応をとることを記載しています。食物アレルギー・未食対応マニュアルが整備されています。アレルギーに関して提出する書類は、園9点セット・保護者5点セットとわかりやすく表示し、もれなく書類を管理することができます。園長・保育士・栄養士で面談を行い、対応方法などの細かな点まで確認しています。献立を見ながらの食材確認は毎月行い、保護者の捺印を確認しています。誤食を防ぐために、配膳時には専用の食器を使用し、機も他の園児から離す等対策を行っています。職員は、アレルギー疾患に関する研修に参加しています。研修報告を全職員で共有し、必要な情報や技術を習得しています。</p>	

A-1-(4) 食事	第三者評価結果
【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	b
<コメント>	
<p>中期計画には、保育と食育の連携について明文化しています。2023年度事業計画においても「保育と食育の連携強化のための職員意識の統一」を重点課題として掲げています。食に関する豊かな経験ができるように、年齢にあわせた食育計画を実施し、全体的な計画にも記載されています。子どもが、食について関心を深めるための体験として、クッキング教室を行っています。トウモロコシの皮むきやおにぎりを自分で握ったりし、お皿も特別な紙皿で、自分の好きな柄を選んで盛り付けることをしています。給食日より、季節の食材や行事、食事と体の関係についてわかりやすく説明するだけでなく、簡単な調理についても情報提供しています。給食では、定量を食べることを目的とするのではなく、子ども自身が、自分が食べられる量を自分で考え、職員に伝えられるように援助を行っています。利用者調査では食事を楽しめる工夫が評価されておらず、今後は家庭に周知し連携した取組が期待されます。</p>	
【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
<コメント>	
<p>衛生に関する各種マニュアルが整備されており、適切な衛生管理のもとで食事を提供することができます。2週サイクルメニューが採用され、季節の食材を使い、子どもたちが食べやすいメニューを心がけています。給食日誌には、残食状況だけでなく、「最初の一口が進まなかったが、食べ始めたら完食した」「好みはあったが、乳児がよく食べていた」など、給食時に各クラスを巡回して確認した喫食状況を丁寧に記録しています。作品展では、栄養士コーナーを設け、給食について紹介したり、クッキーの配布を行ったこともあります。夏祭りやクリスマスには、バイキングを実施しました。季節や行事の楽しさを感じるだけでなく、自分が食べたいものを、食べられるだけ選ぶ体験をすることができました。</p>	

## A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<コメント>	
<p>0~2歳児は、連絡用アプリケーションで生活や遊びについて日々伝え合っています。3~5歳児は、連絡ノートを使用して子どもの様子を保護者と共有しています。保護者と担任が会えない場合でも、職員が連携し、伝え漏れがないように努めています。年2回行う保護者会では、良いことだけでなく悪いことも伝えてほしいとの保護者からの要望があり、できたことや嬉しいことなどのプラス評価ばかりでなく、トラブルなどのマイナス面についてもありのままに伝えるようにしています。日頃から気になる姿を伝えることで、保護者と一緒に考えていく気持ちや家庭保育を支えていく姿勢を示すことができるようになっていきます。家庭の状況については、児童票から家庭の状況を確認するだけでなく、日々の送迎の時間には、保護者と子どもの様子を把握しています。保護者自身の様子にも一声かけてコミュニケーションを取るようにしています。</p>	
A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a
<コメント>	
<p>職員は、保護者との挨拶を大切に、相談しやすく明るい対応を心がけています。送迎時には積極的に声をかけて日頃から保護者との対話を大切にしています。担任だけでなく、園長も保護者の希望や意見に快く応じ、必要があれば、プライバシーに配慮しながら事務所や保育室の一角で話をする体制を整えています。職員が、すぐに返答できない内容を受けた際には、「確認後、改めてご返答致します」と保護者に伝え、園長の助言を受けてから丁寧に回答しています。保護者からの相談に対し、保護者の気持ちや心身の状況に寄り添いながら支援することを大切にしています。相談内容については、全職員で情報共有を行っています。運動会やクリスマス発表会などの行事後アンケート、個人面談、懇談会などで保護者の意見や要望を聞く機会を設けており、寄せられた意見をもとに職員間で話し合い、保育内容や行事内容の改善に役立てています。</p>	
【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b
<コメント>	
<p>登園時には、笑顔で挨拶を交わしながら、保護者と子どもの様子に変化がないか見逃さない観察力を養っています。家庭での喫食状況や睡眠時間なども確認しています。着替えやトイレの援助を行いながら、全身の視診を行い、気になることがある場合は、速やかに職員同士で確認し、園長へ報告しています。保護者に対しては、気持ちに寄り添い、会話を通して家庭保育を支援する温かい気持ちが届くように配慮しています。地域で行われている子どものイベント等のパンフレットを玄関に置き、子育ての悩みが少しでも軽減されるように情報提供をしています。児童相談所等の関係機関とは、いつでも連絡を取れる体制を整えています。職員は、虐待に関する研修に参加し、全職員が研修報告を共有して虐待権利侵害についての知識を深めています。</p>	

### A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
<p>A-3-(1)-①            【A20】 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>職員は、週案・日誌において、子どもの活動の様子を記録するだけでなく、自己評価も記入して日々の保育活動を振り返っています。月間保育指導計画では、その月における自己評価を記録してどのような意図をもってその活動を行ったか、結果どうであったのかを分析しています。自己評価を踏まえて、職員会議で話し合いを行っています。園長は2ヶ月に1度面談を行い、保育の専門性の向上だけでなく、保育者自身の今後のキャリアアップに向けての意識を持ち、今どうあるべきか「なりたい保育士像」を確立していけるように指導しています。保育士が輝くことで、子どもの未来を輝かせることができると認識しており、振り返りを生かした保育の質の向上に取り組んでいます。</p>	